

## 行政事業レビュー公開プロセス(6月21日)

### (事業名)非正規労働者総合支援事業推進費

コメント結果	事業全体の抜本的改善3 事業内容の改善3
--------	-------------------------

3 人	事業全体の抜本的改善
3 人	事業内容の改善
0 人	現状どおり

#### <とりまとめコメントの概要>

支援対象の明確化やその効果の検証、民間との違い・すみ分けの明示を念頭に更なる見直しを行い、概算要求へ適切に反映させることが必要。

#### <外部有識者のコメント>

- ・「わかものハローワーク」の事業に移行していくという見直し案は納得できる。であれば、「わかものハローワーク」は民間と比べてどのような特徴、違いがあるのかをより明確にしてほしい。支援の中味がどう違うのか。医療、教育機関などとの連携もあるのではないかと。このあたりを明確に打ち出してほしい。
- ・上記とも関連して、「わかもの」が対象とする層はどのような特徴を持っている人たちなのかを分析し、明らかにしてほしい。そうすれば、「わかもの」の事業を拡充していく意味も納得できるものになるだろう。
- ・省内の同種事業との比較検討と予算配分の具体案が必要。
- ・民間との事業比較が必要(民間と競うのか、民間がやらないところをやるかなど)。
- ・見直し案にある、設置箇所の再編整理による効果を具体的に測定した上で事業遂行する必要がある。
- ・就労支援プログラムによって就職した方のその後の定着状況を定期的に把握することが望ましい。
- ・求職者への個別指導は評価できる。ただし、対象を「若者」、「非正規労働者」というくくりで、求職者の多様性(事情の違い)に対応できているとは思えない。ターゲット(求職困難者の識別)の見直しが必要。
- ・求職ナビゲーターの効果、すなわち支援の内容、対象地域による効果の違いについて検証が必要ではないか。
- ・「単位あたりコスト」が高い分、求職ナビゲーターの支援対象は最も効果的な範囲に限定すべき。
- ・プログラムは「大括り」にしてワンストップ化の上、要支援対象者を識別し、個別支援するようにシステムを改めてはどうか。
- ・事業内容が既存の他のものと重複感があり、利用者には極めて分かりにくい。屋上屋になっている。窓口を一本化すべき。

- ・民間企業なども同様のサービス提供を無料で行っており、また、クオリティーが高く、ハローワークの事業の比較優位性がない。
- ・民間企業のサービスがない地域に限定し、さらに事業の窓口は単純化し、事業の内容はタテワリを解消する必要がある。
- ・能力アップのプログラムとの連携を考えてはどうか。
- ・論点は3つあり、①国が特別会計を使ってどの規模で就職支援サービスを行うべきか、②特定の層にだけ(非正規労働者の若者)大幅に手厚い支援をすることの公平性、③支援内容等のコストパフォーマンス比較等がなされずに事業が複数存在する効率性(重複)。
- ・まず国は、民間との適切なすみ分けを行うことが必要。民間支援の対象となっている層は民間に紹介すべき。公平性の観点からは若年、非正規、女性、子育て等の属性を区別する必要はなく、無用な区別は不公平を助長する。さらに、サービスメニューが多すぎる重複もあり、場所もバラバラで屋上屋を重ねている。基本方針を定めた上で、絶えずコストパフォーマンスを検証すべき。特別会計だから事業がどんどん増えていくという構造に見える。